

全国さんま棒受網地域漁業復興プロジェクト（大船渡地区）

事業実施者：大船渡市漁業協同組合

使用船舶名：第十八三笠丸(199トン)

支援期間：平成24年10月1日～平成26年9月30日

(さんま棒受網漁業)

(取組の内容)

- 省エネ船型、大口径可変ピッチプロペラ採用、大型主機と軸発電による動力の平準化、LED漁灯の採用等による燃油使用量の削減。
- 二重バラストタンクの設置や改正復原性基準の適用により漁船の安全性を確保するとともに、漁船内の居住空間の拡充等により乗組員の労働環境の向上・就業者の確保、育成を図る。
- 船上での箱詰製品及び一本凍結製品の生産を行い、付加価値の向上による、既存のサンマと差別化を図り、新たな販路開拓を目指す。
- 閉鎖型荷捌き所を有し高度衛生管理に対応した新魚市場の整備に対応し、付加価値をもったサンマの生産・販売・流通体制を企画し、地域の活性化を目指す。



大口径可変ピッチプロペラ



船上での箱詰

(事業の成果)

- 水揚量は計画(3,969トン)に比し、2年とも減少した(1年目;2,826トン、21%減、2年目;1,697トン、52%減)が、平均単価が計画に比し1年目(164%、102円/kg)、2年目(260%、182円/kg)とも向上したため、水揚高(299百万円、2年平均)は計画(248百万円)を上回り、**償却前利益(46百万円、2年平均)を確保。**
- 復興計画策定時より漁場が沖合に形成されたこと、地元の活性化に向け大船渡港に積極的に水揚げしたことから漁場～水揚港間の航走距離が長くなり、燃油使用量(598kl、2年平均)は計画(433kl)より38%上回った。なお、従来船が本船と同様の運航をしたと仮定すると、本船の燃油使用量は従来船(718kl、2年平均)と比べ削減となることが試算された。